

開催報告 分科会

平成18年度 第1回 医療安全分科会 テーマ：カルテレレビューと安全ラウンドの実践

東京医療保健大学看護学科教授 坂本すが



カルテレレビューの実践風景

昨年11月3日、4日、NTT東日本関東病院において2日間にわたり医療安全分科会を開催しました。今回は2部構成としました。I部にカルテレレビューの実践、カルテレレビューワークショップ、II部に医療安全ラウンドの実際と国の医療安全対策の動向と病院での医療安全対策の事例検討です。医療安全分科会を充実させたいという主旨でこのような形になりましたが、会場からの発言も多く、熱気を感じた分科会でした。

I部では、カルテレレビューについて①有害事象の推計、②「質・安全の社会的コスト」を推計、③院内における安全対策立案と効果測定に利用する、④個々の患者に対するよりよい対応でした。さらに、カルテレレビューの進め方として参加者がグループになって自らがレビューしました。

II部では、厚生労働省の看護教育指導官から国の看護基礎教育の取り組みや、「医療安全のトレンド」として国際的な動向から今の病院のなかで病棟の危機について語られました。次に院内ラウンドの実践報告では医療安全文化醸成に役立ち、病院で働くスタッフ達が自らピアレビューをしていくことの重要性が報告されました。

2日間を終え、医療安全はリスクマネージャー、一人で行うものではなく、基本的には医療の質向上目標に病院の職員、地域の方々、企業の方々、患者や家族が目指していくプロセスだと痛感致しました。また質改善は一言では表せない多くのことを含みますが、たゆまない努力が必要だと思います。これからもみなさまのご期待にそった分科会にしていきたいと思ひます。ご指導をお願い致します。

開催報告 地方会

第2回広島地方会

会長：県立広島病院院長 大濱紘三

平成18年9月9日(土)、会場広島市民病院にて、第2回広島地方会が開催されました。テーマは“どうなる？日本の医療、広島の医療”で行われました。

小山秀夫先生(静岡県立大学)、大濱紘三先生(県立広島病院)の講演後、県下の病院長(地方会理事)を交えシンポジウムが行われました(座長：谷田一久)。合わせて、広島地方会内での分科会、SPD分科会、DPC分科会、人事考課分科会の報告がなされました。参加者は約200人と盛況でありました。

(文責：広島国際大学 助教授 谷田一久)

第5回九州・山口連合大会

会長：国立病院機構西別府病院院長 森 照明

平成18年11月24日、25日に国立病院機構大分医療センターと国立病院機構別府医療センターのご協力を得て、別府市ビーコンプラザで開催しました。約1,400名の参加があり、成功裏に会を終了することができました。

メインテーマは「医療安全とコミュニケーション」としました。口演255演題、クリティカルパス展示122演題で、7つのシンポジウムの演題を入れますと合計400演題を越す発表で活発な討論がされました。

主な内容は、宮崎理事長の基調講演「病院運営とクリティカルパス」、会長講演「病院改革一途半ば」。シンポジウムでは①「より良い医療コミュニケーション」で模擬患者のライブを実施し好評でした。②医療事故の予防と対策、③地域医療連携、④医療経営、⑤事務部門改革、⑥チーム医療の推進、⑦医療の質の7テーマを組みました。



森 照明 会長

教育講演は①医療の質と改善策、②医療訴訟の現状と対策の2講演、5ランチョンセミナー、一般演題、クリティカルパス展示、クリティカルパス実践セミナーを実施しました。今回は事務部門の皆さんの学会参加推進も一つの大きな柱として企画しました。これも予想を超える多くの事務職の参加と発表があり、当初の目的は達成いたしました。

招待講演としてはあの有名な焼酎ブランド品「いいちこ」の創始者である西太一郎会長に「グットスピリッツーもの造りにかける想い」を講演していただき大好評でした。全員に贈呈して下さった新焼酎「西の星」の味も格別でした。

さらに今回は特別に医療安全講習会も実施し約100名の出席者には2日間で8時間の受講証を発行し、専任リスクマネージャー養成に貢献しました。



クリティカルパス展示 会場風景

多くの関係者の皆様のご協力、ご支援のお蔭で終了出来ましたことに心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。